

高等学校 令和6年度（2学年用）教科

家庭基礎

科目

教科： 家庭基礎

科目： 0

単位数： 単位

対象学年組： 第 2 学年

組～ 組

教科担当者： （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ） （ 組： ）

使用教科書： （ 図説 家庭基礎 実教出版 ）

教科 家庭基礎

の目標：

【知識及び技能】家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それらにかかわる技能を身につける

【思考力、判断力、表現力等】生活の中から課題を見いだして解決策を構想し、考察したことを表現するなどの力を身につける

【学びに向かう力、人間性等】生活の課題解決に主体的に取り組み、自分や家庭、地域の生活を創造し実践しようとする態度を身につける

科目 0

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生活の課題解決に主体的に取り組み、自分や家庭、地域の生活を創造し実践しようとする態度を身につける	生活の中から課題を見いだして解決策を構想し、考察したことを表現するなどの力を身につける	生活の課題解決に主体的に取り組み、自分や家庭、地域の生活を創造し実践しようとする態度を身につける

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	・自分らしい生き方と家族 多様化する職業形態について理解する。さまざまな結婚、家族について理解し、現代の家族の抱える課題などを多角的に考える。家族に関する法律について理解する。	将来の職業選択について考える。さまざまな家族形態について学び、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。家族に関する法律について学習する。	【知識・技能】 職業労働の雇用形態について理解できる。結婚、家族の形について理解し、その変化と課題を理解できる。 【思考・判断・表現】 自分の職業について考えることができる。家族の課題について解決策を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 職業について、近い将来のことという意識をもって取り組もうとしている。将来の自分の家族について考えようとしている。家族の課題についての解決策を考えようとしている。	○	○	○	4
	・経済的に自立する・消費行動を考える 家計における収支のバランスや多様化している支払い方法について理解する。問題商法の種類と対処法について理解する。	給与の使い方をシミュレーションし、収支のバランスについて学習する。さまざまな支払い方法のしくみや計画的なお金の使い方について学習する。問題商法や被害にあった場合の解決方法について学習する。	【知識・技能】 収支バランスなどを理解し、シミュレーションをすることができる。さまざまな支払い方法のしくみを理解する。問題商法の種類や対処法について知識が身についている。 【思考・判断・表現】 収支バランスについてシミュレーションし思考することができる。クレジットカードやローンの返済方法などによる違いを思考・判断できる。問題商法の被害を防いだり、早期に解決するための方法について思考・判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 家計についてよりよい収支バランスを考えようとしている。さまざまな支払い方法と計画的なお金の使い方について理解しようとしている。問題商法の被害にあった際の対処方法を知らうとしている。	○	○	○	4
	・高齢者とかかわる 高齢社会の現状を理解するとともに、高齢者への理解を深める。高齢者の介護保険制度のしくみやサービスの内容について理解する。	高齢社会の現状と課題について学習する。高齢者の心身の変化と生活について学習する。介護保険制度について学習し、これからの介護と課題について考える。	【知識・技能】 現在の高齢社会について統計などより理解することができる。加齢にともなう心身の変化や特徴を知り、介護保険のしくみについて理解できる。 【思考・判断・表現】 高齢期について自身のこと、家族のことを結びつけながら考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 高齢期について自身のこと、家族のことを結びつけながら考えようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
2	・衣生活をつくる 繊維の特徴や布の種類・構造について学び、その手入れにおける洗濯表示や洗剤の種類を理解する。生活を豊かにするものを製作する。	繊維や糸、布について学び、洗濯表示や洗剤の種類を学習する。被服製作実習では、ふくさを製作する。	【知識・技能】 繊維や糸、布の種類や特徴および用途が理解できる。洗濯表示の意味や洗剤の種類と用途を理解できる。ふくさの用途について理解し、製作することができる。 【思考・判断・表現】 洗濯表示や繊維の特性による、衣服の手入れ方法の違いを適切に判断できる。ふくさの制作過程における自分の課題について解決策をみつけ実践し、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 家庭洗濯による衣服の手入れについて考えようとし、被服製作実習に意欲的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	・住生活をつくる 平面図の読み取り、生活の機能に応じた住まいを考え、よりよい住環境とはどのようなものか理解する。	平面図やその他の情報を正しく読み取り、自分に適した住まいについて学習する。さまざまな住まい方や住環境について学習する。	【知識・技能】 平面図から正しい情報を読み取れる。さまざまな住まい方やよりよい住環境について理解できる。 【思考・判断・表現】 住まいに関する情報から自分に適した住まい	○	○	○	9

学 期			を考え、判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 将来どのような住まい方をしたいか考え、よりよい住環境について考えようとしている。	○	○	○	4
	・食生活をつくる 現代の食生活の傾向を理解し、健康的な食生活の必要性に気づき、栄養と体のつながりを理解する。食品の品質表示のを見て適切な選択ができるようにし、食品添加物や食中毒の種類について理解する。バランスのよい食事計画ができるようにする。	食育と健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する。食品の品質表示、食品添加物の使用目的について学習する。食中毒の種類を学び、衛生的な管理について学ぶ。食事バランスガイドを見ながら、何をどれだけ食べればよいのか考える。	【知識・技能】 栄養素の働きについて基礎的知識を身につけることができる。品質表示の見方がわかり、食品を適切に選択することができる。食中毒の種類や予防法、食品添加物の種類や使用目的についての知識が身につく。 【思考・判断・表現】 食品の衛生的な管理について思考・判断できる。食品添加物の安全性について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の現在の食生活について課題を見つけ、改善にむけて取り組もうとしている。食生活の安全性について考えようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	・子どもとかかわる 子どもの人間形成における家庭の重要性を理解する。子どもの安全対策や食生活について理解を深める。家庭保育と集団保育、子育てのための国や地域の支援について理解する。	子どもの成長過程における安全対策や食生活について学習する。これからの親子関係について、事例をもとに考える。子育てにおける社会環境について考え、仕事と子育てが両立できる環境について考える。	【知識・技能】 子どもの発達と起きやすい事故、望ましい食生活について理解できる。人間形成には保育者やまわりの人とかかわりが重要であることが理解できる。家庭保育・集団保育の重要性を理解し、どのような社会的な環境が整えられているか理解できる。 【思考・判断・表現】 子どもの発達に対し、どのような関わり方がよいか考えることができる。子育ての環境や国・地域の支援策や課題について情報を収集し、まとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の現在・将来と結びつけながら考え、学習しようとしている。	○	○	○	4
3 学 期	・社会とかかわる 自助、共助、公助と社会保障制度について知識をつける。	年金・健康保険・雇用保険や子ども・高齢者に対する福祉制度などについて学習する。	【知識・技能】 自助、共助、公助と社会保障制度について理解できる。 【思考・判断・表現】 自助、共助、公助と社会保障制度について、現在の生活課題と関連させながら思考・判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自助、共助、公助と社会保障制度について、現在の生活課題と関連させながら考えようとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
							合計 33